

平成29年度 活動方針(案)

平成28年の直江津港におけるコンテナ貨物取扱個数は、対前年比99.8%にとどまったが、引き続き中国経済の成長鈍化や長引く円安などを背景に、コスト削減を目的とした他港から直江津港へのシフトや、調達先の国内から海外へのシフトなどの動きにより、実入りにおいては、コークス、非鉄金属の輸入、化学薬品の輸出が増えたことなどにより対前年比102.2%となった。

今後も安定的な取扱個数を確保するため、利用企業に対する継続利用の働きかけや、他港のみ利用企業に対する事業継続計画・リスク分散の視点などによる直江津港利用の提案など利用促進活動に引き続き取り組んでいく。

また、直江津港における取扱貨物の大部分を占めるLNGの輸入量は堅調に推移している。本年1月、日本で初めて米国産シェールガス由来のLNGが直江津港に輸入された。今後は調達先の多様化や価格の安定化が見込まれるところである。今後もパイプライン延伸による供給先拡大や新たな火力発電所の建設により更なる取扱量の増加が期待される所である。直江津港が太平洋側災害時においても供給可能なエネルギー拠点として、その役割が一層期待される所である。

上越沖の表層型メタンハイドレートについては、平成28年度から資源量把握調査の成果を踏まえた回収開発に関する調査が行われており、平成29年度も継続される予定である。今後の取組加速に向け、また、直江津港が表層型メタンハイドレートの開発・研究、生産施設の拠点港に選定されるよう、県や市、関係者と連携しながら、国に働きかける必要がある。

小木直江津航路においては、平成28年の利用者数は約15万4千人であり、新造船就航効果の反動から前年実績を下回ったものの、「あかね」就航前の平成26年の実績を上回っている。引き続き、関係者の総力を結集し、更なる利用者の増加に向けて取り組むことが必要である。

港は、人や物が集まることにより、賑わいや交流が生まれる場であり、そうした港の持つ機能を含め、重要な社会基盤でもある直江津港の機能と役割について、市民を始め、港を訪れる皆さんに、より一層理解していただくことも重要なことである。

以上を踏まえ、次の事項を重点目標に掲げ、関係者が一致協力して活動を展開する。

重点目標

- 1：直江津港港湾計画の促進
 - エネルギー港湾としての整備促進
 - 港湾施設の維持、拡充
- 2：直江津港の利用促進
 - 地域産業との結びつきを強めたポートセールスの実施
 - 長野県や近隣地域との連携による利用促進
- 3：国際定期コンテナ航路の拡充
- 4：国の港湾施策並びに次世代資源メタンハイドレート関連施策に関する情報収集及び要望活動
- 5：高速カーフェリー「あかね」をいかした小木直江津航路の活性化
- 6：交流拠点としての直江津港の賑わい創出